

東京の観光振興を考える有識者会議
江戸の歴史・文化部会
議事録

令和6年5月28日（火）14：30～15：39

都庁第一本庁舎7階大会議室

【江村観光部長】

お待たせいたしました。これより「東京の観光振興を考える有識者会議 江戸の歴史・文化部会」を開会いたします。

本日は、御多忙の中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

座長が選任されるまでの間、私、東京都産業労働局観光部長の江村が進行役を務めます。よろしく願いいたします。

まず、本日の資料を確認いたします。

お手元には、議事次第、座席表、資料1の委員名簿、資料2の本部会の設置要領をお配りしております。また、資料3及び本日のプレゼンテーション資料は、卓上のタブレット端末で御覧いただきます。

なお、タブレット端末のページ送りは事務局で操作いたしますので、御承知おきください。

続いて、マイクの操作について申し上げます。

御発言の際、マイクの右側のボタンを押し、赤いランプが点灯してから御発言いただきますようお願いいたします。御発言が終わりましたら、再度右側のボタンを押してマイクをオフにしてください。

次に、委員の皆様を名簿の順に御紹介いたします。

静岡市歴史博物館館長、大石学委員でございます。

江戸都市史研究家、東京都立大学プレミアムカレッジ非常勤講師、後藤宏樹委員です。

東京商工会議所副会頭（トラベル&ツーリズム委員長）、田川博己委員です。

公益財団法人徳川記念財団理事長、徳川宗家第19代当主、徳川家広委員です。

公益財団法人徳川ミュージアム館長、徳川眞木委員です。

なお、歴史タレント・歴史作家の堀口茉純委員は所用で御欠席との連絡をいただいております。

次に、本部会の座長の選任を行います。

設置要領では、座長は委員の互選により選任することとなっております。委員の皆様、いかがでしょうか。

後藤委員、お願いします。

【後藤委員】

後藤のほうから、東京の観光振興に御尽力いただいている田川委員を座長に推薦をさせていただきたいというふうに思います。

【江村観光部長】

ただいま後藤委員より田川委員を座長にとの御推薦がございました。委員の皆様、いかがでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

【江村観光部長】

それでは、田川委員に座長をお願いいたします。

この後の議事進行は田川座長をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

【田川座長】

ありがとうございました。

それでは、僭越ながら座長を務めさせていただきたいと思います。

このたび、観光の有識者会議に専門的な部会を設けて検討を深めていくことになりました。

この部会では、江戸時代から続く歴史や文化の一層の活用について議論をしていきたいというふうに考えております。

先ほど御案内いただいたとおり、長年この観光産業に――1971年ですからもう53年間この業界におりますけども、これまで交流や文化を含めてツーリズムの盛り上げに対応してまいりました。その街の本質を理解することが最も大切だというふうに、観光産業に携わって、この経歴の中で考えてきました。

「江戸の歴史・文化」、まさに今の東京の礎でありまして、これを観光に活かすことは、「国際観光都市・東京」のブランディングを進めていく上で大変重要で、東商でも「国際文化都市東京」というものを目指しておりますので、ぜひともよろしくをお願いしたいと思います。

この部会には、そうそうたる方々に今日お集まりいただきましたので、大変心強く感じておりますので、ぜひそれぞれの御専門やバックグラウンドに根差した御意見をたくさんいただきたいというふうに思います。人数も少数ですので、ざっくばらんにいろいろなお話をしていただければ大変ありがたいと思いますので、よろしくどうぞお願いいたします。

それでは、早速会議を進めてまいりたいと思いますので、まず、小池知事から一言御挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【小池知事】

冒頭でございますので、立って皆様方に御挨拶申し上げたいと存じます。東京都知事、小池でございます。

本日は、「東京の観光振興を考える有識者会議」に、部会といたしまして「江戸の歴史・文化部会」ということで設けさせていただきましたところ、大変御多用のところを御出席を賜っております。誠にありがとうございます。

ここから着座にて失礼いたします。

今、観光も、大体コロナ前の8割方戻ってきて、そして、かつ、そこでインバウンドの皆様方、5兆円の消費を行っておられて、これは過去最大ということでございます。

ただ、江戸を語るにおいて、ただ観光という点ではなく、やはり歴史であり、文化の重みがあってこそでございます。そして、それをつくり上げてきた人、

そしてまたそこで作り上げられてきた様々な文化、思想、こういったものこそが、インバウンドの方のみならず、世界からリスペクトされる東京なのではないか、また日本ではないのかというふうに思っておりますので、観光という観点だけではございません。やはり東京の奥深さ、江戸時代の歴史、そこから育まれた文化、これを改めて気づきにし、また、世界へと発信もしていきたいと思っております。

何よりも、江戸時代は約300年間本当に平和が続いたということが何よりの宝でございます。そして、世界最大の人口を当時誇った。そして、かつ、その暮らしが、SDGsとか、最近片仮名が多いんですけど、何のことはない、江戸時代はそれをまさに日常生活のコンセプトとして、生活として根づいていたということ、これほど誇りに思うことはございません。

一つ一つ挙げれば切りがないんですけども、浮世絵のあそこに描かれている人々の生活、そこから派生して漫画が生まれてきて、それが今、世界でも大変好まれている。

そして、私はよく使いますけれども、風呂敷も、お風呂という文化があって、そこに自分の持っているもの、着ているものを家紋のついた風呂敷にぱたぱたと包んで、いつも申し上げる、これがエコバッグだということ。

それから、日本橋などもそうですけど、のれんなども、そのの屋号が書いてあって、とても今見てもかっこいいなと思うわけですね。

世界に広く知られた文化が育まれた江戸の時代でございます。

そういったソフト面もすばらしい。一方で、ハード面も、当時の風格を残す神社、お寺などもございますし、それから、水道の、水のインフラも、これもローマの水道とか、いろいろありますけれども、江戸時代の水を活かした社会づくり、経済というのも非常に特筆すべきことではないか。それに伴って、水運、橋なども高度な土木技術を支えてきてくれたことだと思えます。

まさしく現在の東京が引き継いでいるのがこの偉大な遺産でございます。皆さんにまさにそういったところをこれから教えていただきたいわけですが、この江戸の文化・歴史を保全しながら、観光客の皆さんにも楽しんでいただくと。そのために磨き上げていく工夫が必要だというふうに考えております。

有形・無形の誇るべき遺産を、世界遺産への登録も含めまして、後世に継承していく取組を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

そして、何よりも徳川家の家広様、そして眞木様、御参加、誠にありがとうございます。徳川家なくしてはこの江戸は語れませんので、もう御出席、御参加いただいていることがまず全てのスタートであり、多くのこの中身を、コンテンツを占めるものでございます。

そして、研究者の皆様方にも、こうやっていろんな角度から御研究いただく

ということでありませう。

本当にこのテーマにふさわしい方々にお集まりいただいたと感謝申し上げます。

知見とアイデアを結集しまして、江戸の魅力と価値の一層の活用に向けた道筋をつくり上げていきたいと思っておりますので、忌憚のない御意見を賜りたく、どうぞよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。

【田川座長】

ありがとうございました。

小池知事は、御都合により退席をさせていただきます。

お忙しい中、ありがとうございました。よろしくどうぞお願いいたします。

御苦労さまでございます。

(小池知事退室)

【田川座長】

それでは、まず、事務局からの資料の説明をいただきます。その後、各委員からプレゼンテーションを頂戴したいと思いますので、よろしくお願ひします。プレゼンテーションの後に意見交換を行います。

それでは、まず、事務局より資料の御説明をよろしくお願ひいたします。

【前田観光振興担当部長】

観光振興担当部長の前田と申します。

資料3「江戸の歴史・文化の魅力・価値の一層の活用に向けて」、御説明いたします。

まず、東京に今も息づく江戸の歴史・文化です。

東京には、御覧のとおり、寿司などの料理、工芸品、文化・芸能、史跡や神社仏閣など、江戸の歴史や文化が有形・無形の形で今も多く息づいております。

江戸の暮らしには、サステナブル、インクルーシブ、レジリエントの観点で、現代・未来の社会課題を解決する英知が秘められており、こうした江戸の歴史・文化について、観光資源として一層活用を図るとともに、世界に誇る遺産として後世へ引き継いでいく必要がございます。

続きまして、江戸の歴史・文化の活用に関する都の主な取組を御紹介いたします。

文化資源を活かした観光振興としては、地域が主体となり、のれんなどを活用し、江戸情緒あふれる地域の景観を創出する取組や、江戸・東京の歴史・文化を活用した観光モデルコースの作成について、今年度、新たに取り組みます。

このほか、日本文化を活用した観光振興の取組や、地域固有の歴史・文化、自然・景観や伝統工芸などを活用した自治体の新たな取組への支援、観光資源となる建物や技術等の維持・保全のための取組や、宿泊事業者による日本文化の体験プログラムの作成などを支援いたします。

続いて、江戸の英知の発信、デジタル技術を活用した江戸の魅力の発信ですが、けれども、「歴史・文化を軸にした東京の魅力発信に係る懇談会」での検討内容を踏まえまして、江戸の文化や現代に残る遺構などを特設のホームページで発信をしております。

また、先日まで日本科学未来館などで開催しておりましたSusHi Tech Tokyoにも出展をいたしまして、同内容のPRをいたしました。

また、メタバース空間を活用した観光PRに取り組んでおりますけれども、「Edo Area」を設置しまして、「江戸城」をデジタルで再現し、江戸の文化を体験できる場をつくりました。

江戸・東京の歴史・文化に関する資料の収集・展示等につきましては、江戸東京博物館は、現在、大規模改修工事のため休館をしておりますけれども、収蔵品などを活用いたしまして、江戸・東京の暮らしや文化・歴史を学べる体験型アプリをリリースしております。

続きまして、都民等が文化財に触れる機会の提供ですけれども、毎年秋に「東京文化財ウィーク」を実施しております。

都立中央図書館の企画展では、江戸城の天守を描いた重要文化財を展示したほか、江戸幕府の行事や儀式を紹介いたしました。

続きまして、江戸から伝わる匠の技などの魅力の発信ですけれども、現在、42品目を東京都伝統工芸品に指定し、これらの魅力を発信する取組を実施しております。

また、「江戸東京きらりプロジェクト」といたしまして、産業分野における伝統の技による優れた製品の発掘、磨き上げを行いまして、海外の展示会に出展するなどの世界への発信を実施しております。

「東京の観光振興を考える有識者会議」では、今年の2月に歴史・文化を活かした観光の促進をテーマに御議論をいただきまして、江戸の文化は世界にも例のない特別なものであるなど、江戸の魅力や観光資源としての保全など、御覧のように様々な御意見を頂戴しております。

以上を踏まえまして、本部会における議論の進め方等です。

議論の目的といたしましては、東京の魅力を国内外にPRするアイコン・キャッチフレーズである「Tokyo Tokyo Old meets New」ということですが、江戸から続く伝統と先端の文化が共存する東京の特色を表現しております。

その「江戸から続く伝統」というところの魅力を掘り下げて、東京のブランディングの強化や観光振興の促進につなげていくこと、また、世界遺産等という目標を見据え、江戸の魅力を発掘・抽出していくことですが、議論の主な論点としては、「江戸の歴史・文化」を、インバウンド等の誘客において、どのように活用していくべきか。旅行者に対し、江戸の魅力をどのように伝えることが有効なのか。観光資源として長く活用していくために、保存・保全に係る

課題は何か。また、後世に継承していくべき遺産として、どのようなものが考えられるか。こういった点となろうかと存じております。

最後のページは、東京都全体の計画からの抜粋ですが、左側のブルーの囲みの中に「江戸の歴史・文化を『世界遺産』に」という記載がございます。

資料の御説明は以上でございます。

【田川座長】

ありがとうございました。

それでは、各委員の方からプレゼンテーションをいただきたいと思います。

まず、徳川家広委員からお願いできますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

【徳川（家）委員】

徳川でございます。

まず、動画があると思いますが、今、タブレットのほうに私の自己紹介がございます。興味おありでしたら後でお読みください。

参考動画を御覧ください。

（動画上映）

【徳川（家）委員】

どうもありがとうございました。

これ、英語版と日本語版、両方作ったんですね。インバウンド、富裕層向けのプロモーションとしてこれを作ったのですが、実は江戸文化と言いながら、歌舞伎と浮世絵ではなくて、お能と茶道と、あとはお寺で、これは増上寺を会場にして行ったものなんですけれども、仏教は日本が日本と名のる前から日本に来ておりまして、お能は中世、そして、茶道にしても、一番有名なのは千利休ですから、江戸時代前に亡くなっているわけですが、そういう言い方はしていないんですけれども、日本史の中の江戸というのは何だったんだろう、徳川家康が天下人になって日本をこれからこうしていこうというときに、どういう意味合いを江戸の町に持たせたのかということを考えていく上で、この3つ、仏教、茶道、お能は結構重要であるというのは、これ、3つとも、それまで戦で暴れることしか能のなかった武士たちを新しい時代にふさわしい事務労働者に変えていく上でかなり重要だったのではないかということですね。人間の立ち居振る舞いを統治する側の人間にふさわしい荘重なものにしていく上で非常に効果があったであろうと。そうやって出来上がった――80年ぐらいかかるわけなんですけれども、出来上がった行政文化の中で、今の私たちにとってなじみ深い東京の文化があると。

世界の人が東京にやってきて一番驚くのは、まず、これ、世界最大の都市なんですね。最近、上海と抜きつ抜かれつで、多分10年するとムンバイとかにも抜かれちゃうと思うんですが、世界最大です。いわゆる先進国では間違いなく

最大。そして、そこが安全で、清潔で、あと超高密度の中で人々がかなり幸せそうに暮らしているという、これが江戸時代から連続している一番重要なものではないかと思うんですが、その根っこには、今御覧いただきました江戸時代の武家文化というものがあったというわけでございます。

そして、大勢の人が狭い中で平和共存していけると。徳川幕府ができたときの日本というのは、これ、戦国時代、内戦のみならず朝鮮出兵という非常に大がかりな対外戦争、2つを経た直後なんですね。人の心は完全に荒廃し切っています。それともう一つは、人の心が荒廃しているというだけではなくて、周りの人間が全部敵に見えてしまう。ものすごいPTSDを日本中の人たちが抱えていたという中で、どうやってこれを永続する平和にしていくかと。それはもう関係性を変え、そしてもう心構えを変え、まさに新しい文化をつくらなくてはいけない。その実験場として江戸の町が使われたという言い方も可能だと思います。

結局、江戸の町、産業革命以前としては世界最大の100万人と言われますが、日本の人口、江戸時代中期から後は3,000万なんですね。3%なんですよ。でも、今は、東京圏、首都圏の人口3,000万ですから、日本の人口の4分の1ぐらいまで来ているのですね。そのことが日本という国自体を今になって変えてきています。その出発点として江戸がありました。そういうことを強調しておるわけでございます。

ですので、あそこで私が説明をしている動画もちよっと映りましたけれども、自分なりの、ものすごく大まかな日本史の説明で、例えば江戸開府というのは、実はピルグリム・ファーザーズ、イギリスの清教徒の一団が今のアメリカの東海岸に上陸したのとほとんど同じ時代なのですよと。アメリカに到着したプロテスタントたちが新しい社会をつくろうとしたように、徳川家康も関東平野に新しい社会をつくろうとしましたと。だから、日本というのは、古い日本である西日本と新しい日本である東日本とではヨーロッパとアメリカぐらい違うのですというふうに、やや誇張を入れて説明いたしますと、初めて日本のことが分かりましたというふうにお世辞を言っていただけたわけでございます。

私は、歴史学の専門ではないので、こういった大きなところでどうやって人に分かっていたかということと、それともう一つ、戦国時代から明治維新以降も華族という枠の中で公的な役割を担ってまいりましたので、その長い歴史の中での江戸時代ということを考えて、そういうお話を外国人向けにつくったというわけでございます。

繰り返しになりますが、日本に、特に東京にやってきて、世界中の皆さんは、かなりこれ、どことも違おうと、欧米とも違おうし、ほかのアジア諸国とも違おうということを強く感じていかれると思います。実際に、平和で、しかも、これ、徒歩で移動できるのですね、どこへ行っても安全ですから、非常に交通

手段が稠密でもあって。だから、これ、アメリカで徒歩だけでうろうろできるところというのは、ニューヨーク・マンハッタンだけです。ほかのワシントンのジョージタウンとか、ごく一部なのですね。ほかの東南アジア、暑いせいもあってみんな車で移動する。ヨーロッパも基本車ですというふうになっていきますと、東京は何て不思議なところだろうということをごどこかでは感じていくと。その説明というものとしては、今申し上げたようなことになるのではないかというふうに思っております。

私からのプレゼンは以上でございます。

【田川座長】

ありがとうございます。ちょっと普通の人にはなかなか分かりにくいところかもしれませんが、さすがに歴史をお持ちの方のお話だと改めて理解をいたしました。

それでは、引き続きまして、徳川眞木委員にプレゼンテーションをお願いいたします。

【徳川（眞）委員】

ありがとうございます。不慣れでございますので、皆様に伝えられるお話ができるかどうか悩んでおりましたが、今、事務局のほうのプレゼンを受けまして、私が長年取り組んでまいりました文化財の保存や社会教育機関の運営の観点、先ほどの事務局のプレゼンでは、東京都の江戸博さんや教育の方々になさっていた社会教育の取組が私の専門分野でございますので、3点ほどお話をさせていたいただきたいと思っております。

まず1つは、徳川のブランド性についてです。2つ目は、今回プレゼン資料を後でもう一度上映していただくのですが、邸宅と庭園の可能性について提案をしたいと思っております。3つ目です。これらの価値ある取組を継続的にするには非常に長い時間がかかります。やはり社会教育機関の担い手として、東京都さんに未来につながる取組のお願いをしたいと思っております。

では、最初のパワーポイント、「文化資源」という言葉、もうこれは東京都さんの中ではキーワードとして定着しているようなので、そのことを省略して進めさせていただきますと、こちらは、羽田空港の展示スペースで、私どもがコロナの制限のない、ちょっと前に行った実験的展示会の映像です。

この展示会を経験して私が得たものは、この葵の御紋のブランド力です。空港というところは、ビジネスマン、何か目的のある人が利用する交通機関の場所です。この葵の御紋の横型のポスターを空港のチェックインフロアの1階エレベーター横に掲出をしたところ、非常に多くの方が、空港の一番西側の端の文化スペースに足を運んでくださいました。10年間のこのスペースの文化事業の取組の中で過去最大の動員を記録いたしております。

やはり直接的な、視覚に訴えるイメージとして、この展示の協力デザイナー

が江戸のイメージ、徳川のイメージとして採用しました。私ども、水戸の徳川の伝来の品の中で、水戸の黄門の印籠は特別枠ですが、鎧や侍をイメージするような物、徳川家康に関する物、そういった物が非常に人気を博しておりました。

やはり観光アピールではビジュアルに訴えるということが大事です。今回の事務局の提案では、近世大名をイメージする画像がほとんどございませんでした。やはりこういった近世大名のコレクション類も活用していただけたら、皆様に目を向けていただけるのかなと思っております。

次のスライドをお願いいたします。

近年取り組んでおりますことです。やはり日本は非常に研究が進んでいますから、日本人による日本語の文化研究が明治から行われてきました。実は、私どもの所蔵品も、漢文の品については、日本人が読む漢文の理解しかしていませんでした。

ところがある研究者から言われたのですが、「漢字で記録された史料は、漢字の本来の意味に立ち返って資料を理解しなくてはならない。その見直しをしない限り、館長さん、あなたは間違った解説文を展示に用いていますよ」と言われました。

その反省の下に、財団では独自にアジアの研究者や、ここに写っている欧米の研究者、オランダの方お二人なのですが、海外の研究者に史料を提供して、改めて彼らから見た史料の再評価をお願いしております。

次をお願いいたします。

これは先ほどのスクリーン（資料5ページ）です。私どもが当たり前と思っていた江戸の魅力でよく言われるのが平和です。やはり徳川以前の織豊時代の「侵略」という言葉に対して海外の方はあまりいいイメージを持っていません。ですから、私が東アジアの地を訪れると、「徳川は豊臣を破ってくれた人だから当然名前は知っているよ」とか、「徳川さんはたくさん物を買ってくれたから私たちは大好きなのですよ。一緒に写真を撮ってください」と言われました。私は学校時代に、「鎖国」によって、江戸時代は交易を禁止されていた時代と理解して、育ってしまった人間なのですが、幕府によって海賊などの行為が制限されて、安心してお金をきちっと払ってもらえる管理貿易が行われていたということです。

これは海外から見た江戸の魅力と日本人の見方の違いだと思います。徳川の時代は、侵略と侵略の時代の間で、価値ある「平和な時代」でした。

観光をする時、私がおその土地でいつも感じますが、自分の持っている文化と比較して、「何が興味深いか」ということをいつも考えます。「パリではどんな食べ物がおいしいのだろうか、東京で食べられないものを食べてみたい。」「ロンドンでは東京では見られない建築を楽しんでみたい。」というような感

じです。

そこで、「江戸」というキーワードは地名でございますので、ここは「徳川」というキーワードも加えて、近世の価値づくりの中で、「徳川」という時代と、それから「江戸」という地域の両方を取り上げていただけたら良いと思います。

次をお願いいたします。（資料 6 ページ）

こちらは、先行する取組の中で、江戸の遺跡類を主に取り上げています。

先ほど知事のお話にもありましたが、ここの中で私がとても魅力的だと思うのは、やはり「水」です。「衛生」というテーマは水につながります。そして、先ほど家広様のお話にもありましたように、東京の都市づくりは計画的に行われている。つまり、「明暦の大火」の後に、大規模な区画整理が江戸幕府によって行われました。

私どもの江戸屋敷、水戸の徳川家の江戸屋敷は、神田上水を邸内に引き込んでいました。水戸徳川家の敷地の中に神田上水の水を引き込むことで、小石川に大規模な維持管理をする職人さんや技術者を置くことができたと言われております。そこが水道橋の浄水の大曲です。

つまり、ただ水道という遺構をとり上げるだけではなく、江戸幕府の都市づくりの機能についても掘り下げて話ができると、もっと奥深い他の都市と比べた「魅力」を紹介できると思います。

そして、新たなポイントとして私がお話ししたいのは、「邸宅」と「庭園」です。

「邸宅」とあえて申しますのは、世界の文化財のカテゴリーの中で、邸宅というのは非常に重要なものになっております。

資料 7 ページに戻ってください。これは、私が ICOM という博物館の国際会議で使ったパワーポイントですが、日本の伝統的な建物の中で「お城」、江戸城、これは誰でも認識をしています。そして、「宗教施設」、Shrine や Temple、これも先ほどのスクリーン（資料 6 ページ）に追記されています。でも、「邸宅」、House がありません。

ICOM には House Museum の部会がございまして、邸宅・博物館が集まっています。まさに「邸宅」とは、江戸の「大名屋敷」のことに当たります。

大名屋敷は、今、巨大なビル群になって、東京の経済や未来を創る企業となっております。あと公共施設です。大学やそのほか公共の機関が建っています。でも東京都には文化財庭園が残っております。芝離宮、浜離宮、六義園、そして小石川後樂園、これらは公園として保存管理をされていますが、実は訪れる方は「お殿様のいらしたお庭」として楽しんでいらっしやいます。

次の画面（資料 8 ページ）をお願いします。

これは、庭園について皆様に御理解いただくために、私どもの管理いたします名勝・史跡の西山御殿を例に御紹介しております。

まず、この写真は、よくポスターなどに使われる庭園や歴史的建造物のパンフレット用写真です。

次の写真（資料10ページ）をお願いいたします。

これを上空から見ますと、遺構の形や地形、そしてその地域、「なぜこの地域に邸宅が置かれたか」というようなことが見えてまいります。

やはり「どうしてそこに存在するのか」、家広様のおっしゃった江戸のまちづくりの観点から考えて近世大名の邸宅を取り上げていただきたいなと思っています。

そして、次のパワーポイントをお願いいたします。（資料9ページ）

こちらは邸宅の主人が見た庭園の様子です。庭園学では「視座」といいます。ビューポイントですね。

現在、公園は、靴を履いて、回覧路から観覧をしていただいています。でも、それでは本来の芸術品としての庭園の形や魅力を見ることはできません。

次をお願いいたします。（資料11ページ）

こちらは、私どもの西山御殿の主人、水戸徳川家の2代目の徳川光圀が史跡の場所で当時詠んだ漢詩文を御紹介しています。一番最初、「月の輝く夕べ、花が咲いている朝には酒を酌み、詩を詠んで思いのままに楽しむ」。これで情景が浮かびます。「どういう暮らしぶりをしていたか」を文学から私たちは知ることができます。

次です。「美しい音楽や見目麗しい女性、贅沢な食事を好まず、また住まいや身の回りの品々についても貴重なものを求めなかった。あればあったで楽しみ、足りないものがあっても気にしなかった」。この漢詩文からは、先ほど見ていただいた山の中にある樵の家のような御殿がいかに価値があるもの、そこに哲学や思想があるかということを知っていただくことができます。

ぜひ、庭園におきましては、文学、こういった漢詩文と連携づけて、より深い体験を導き出していただけたらよろしいかと思えます。

では、次、お願いいたします。（資料12ページ）最後になります。

子どもたち、若い世代は、江戸時代の暮らしを学校で習い、文字で理解していきます。やはりこういった取組を知っていただくために、ぜひ文化財を守り伝えていく方々、そして伝統技術を受け継ぐ方のために、体験的な事業を進めていただきたいと思っています。

次、お願いいたします。（資料13ページ）

このような調査研究などいろいろなことをしても、技術が継続しなければなりませんので、未来に受け継ぐ事業として、コンテンツとのコラボや、文化財の修復や製作の現場に子どもたちが立ち会える機会を多く設けていただきたいと思っています。

最後になりますが、私が力を入れていることに、ふるさと文化財の森「徳川

の森」というものがあります。やはり江戸時代の文化を受け継ぐために、その素材となるものが今、日本国内から消えようとしております。そういったものも、東京都の中で、まず先鞭を切って、皆様に興味を持っていただくように、保護や情報発信を積極的に進めていただけると、こういった取組が未来につながると私は信じていますので、この場を借りてお願いをさせていただきました。ありがとうございます。

【田川座長】

ありがとうございました。たくさんいろんな御活動されているので、ありがとうございます。特に、先ほど言いました、単なる鎖国ではなくて、交易もちゃんとしながら文化をつくってきたという、そういう300年の歴史のプロセス。なかなか外から見るとよく見えないところでもありますので、そんなお話もありがとうございました。

それでは、続きまして、後藤委員にプレゼンテーションをお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【後藤委員】

よろしくお願いいたします。

私のほうからのプレゼンなんですけれども、もう少し具体的に、江戸・東京の文化遺産、歴史的な遺産がどのような形でどれだけ残っているのかという話題提供をさせていただきたいと思います。

自己紹介になるわけではないんですが、千代田区の文化財で長く働いていまして、その後、退職して今に至るんですけれども、遺跡の発掘調査をしていく中で、遺跡は調査をしたらどんどんなくなっていくという中で、地表の文化財というんですかね、それとともに、江戸・東京の魅力、あるいは文化財がこれだけ残っているんだということを在職中からいろんな形で伝えようとしておりました。そういう経緯を踏まえて、少し資料を用意させていただきました。

初めに、釈迦に説法ではないんですけれども、江戸の町割ということで見ただければと思います。

タブレットのほうに用意したのが、江戸というか、東京の現在の地形図の上に江戸の町割を落としたものです。茶色いところが台地、それから東側の低地ということになります。

御存じのように、江戸の都市というのは7割が武家地ということで成り立っております。

地形を見ていくと、その台地の中にはいろんな谷筋があって起伏の多い都市であったということ、それから、東側の、特に町人地のある神田、日本橋の辺り、地図でいくと灰色の部分になりますけれども、湾岸地域には低地が広がっているという様子が分かるのかなと思います。

この江戸の広がりというのは、文化・文政年間ですから江戸時代の後期の頃

に江戸の町奉行支配のあった場所というものを示しております。

こうやって見ていただくと、山手線が少し見えますけれども、それよりも少し狭い範囲、東でいくと隅田川から東側の本所・深川という地域までが江戸の範囲であったということがこれでお分かりになるかと思えます。

ピンク色という表現をしているところが、北でいくと上野の寛永寺、それから下、南側の増上寺というものを主体としながら、寺社地というものが江戸のどちらかという外堀よりも外側のところに広がっているという様子が分かるのかなというふうに思えます。

こういう地形だとか町割をして、いろんな絵画だとかに描かれていたりとか、あるいは文化財として残っているということになります。

次、お願いします。

私は、どちらかという江戸城を専門にしているんですけども、江戸城の中心にあるのが皇居です。東御苑が一番有名ですけども、実は、あまり知られていないかもしれないんですが、真ん中のピンク色になった部分についてなんです、右の地図になります、これは特別史跡江戸城になります。

近世の城跡の文化財指定というのが100件以上あるんですけども、そのうち、いわゆる国宝級、特別史跡というのは9件しかなくて、有名なところでいくと、姫路城であるとか、あるいは名古屋城、安土城、大阪城といった各時代の中心地ということになります。その1つが江戸城であるということです。

江戸城については、この地図でお分かりになるかと思うんですが、堀と、それから石垣という、どちらかというくるわと呼ばれる範囲ということになります。

それ以外の場所なんですけれども、ぐるりと雉子橋から時計回りにらせん状に広がる江戸城の総構え、外堀というものが史跡として、牛込、飯田橋駅から四ツ谷駅を経て赤坂に至る約4キロのお堀というものが文化財指定されていて、それ以外にも、日本橋川であるとか、あるいは神田川であるとか、大分護岸工事で変わってきておりますけれども、石垣や土手というものが残っているというのが、様子がお分かりになるかなと思えます。

地図の下にある石垣の写真なんです、日本橋川にもかなりの範囲、石垣、寛永13年に築かれた石が使われているということが分かると思えます。

次、お願いします。

残念ながら、江戸城の中では、御殿の跡というものは残っていません。だけど、こうやって見ていただくと、城門、お城の門というものが非常によい形で残っていたり、あるいは、二重櫓、富士見櫓を中心にして、桜田二重櫓であるとか、二重橋の奥に見える伏見櫓というやぐらというものは江戸時代ながら残っていたり、あるいは、一番左の写真の下から2番目、天守台の上のところに諏訪の茶屋というのがあるんですが、二の丸庭園に復元されているんですけれど

ども、これは吹上にあった茶屋ということになります。

ですから、中心になる御殿というものは残っていないんですけれども、様々なものが残っている、あるいは、二の丸庭園というものが、江戸時代後期の絵図を参考にして今も復元された庭園が残っているということになります。

皇居東御苑に行くと、様々な形で説明板が、宮内庁さんであるとか環境省さんで説明板を設置しているんですけれども、すみません、これ、宣伝になってしまうんですが、右下のところに、大手門の前に茶色い説明板があるんですが、退職するとき旧江戸城、皇居周りに20か所近くこのような説明板をつけさせていただいて、QRコードで千代田区のホームページに飛んで、一応、今3か国に解説をしたものに飛ぶような形で説明板を設置させていただいております。

次、お願いします。

大名屋敷なんですけれども、徳川（眞）様からお話がされましたけれども、全体が残っているというところは皆無です。ただ、大名屋敷跡の分布図というものを掲げさせていただきましたけれども、いろんなつてを伝って調べたものを載せました。

実は、大名庭園というものがかなり残っていて、都立公園として有名な六義園であるとか小石川後樂園であるとか浜離宮庭園とかがありますけれども、区立公園として一部泉水が残っていたりということを含めると、約20か所ぐらいの庭園跡が残っております。

そのほかに、特に表門を中心として、やはり20か所近い、表門というか、建造物というものが移築されたり、赤門はその場にあったり、そういう形で残っているということで、意外と大名屋敷の跡が残っているということが知られていないというところ。

各地、全国に行くと、例えば水戸の偕樂園があったりとか、あるいは岡山の後樂園があったりとか、金沢の兼六園があったりという、各大都市には大名の庭園がありますけれども、これだけの量が東京の中に残っていて、なおかつ、泉水というものが、例えば玉川上水であるとか千川上水を利用したり、あるいは隅田川であるとか、あるいは、湾岸地域に行くと汐入庭園があったり、谷地形を利用した湧水を利用したりというように、その場その場の、例えば自然地形であるとか、あるいは自然の樹木を活かしたという形で、大名の池泉回遊式庭園というものが営まれていて、台地であったり低地であったり、様々な庭園の見え方というものが実はあるんだということが東京の大名庭園の強みなのかなと思います。

次、お願いします。

次に、寺社地なんですけれども、江戸時代の頃には2,500以上の寺社があったということが記録されているんですけれども、今も結構残っておりまして、下のところの写真には、寛永寺の家綱公と、それから綱吉公の霊廟が残っていた

り、あるいは増上寺が残っているというように、将軍家、それから大名家の墓所もかなりの数、調査をして数えたことがあるんですが、200基近い墓所が東京に現存しているということを知ることができました。

そういうように、かなりの寺社、それから墓所というものが残っているということと同時に、右側の地図には、大名屋敷であるとか、町屋にあった稲荷というものが今も区民の方々が手入れをして残っているということで、太田姫稲荷神社と、それから佐竹と、神田のところの2つを載せさせていただきました。

次、お願いします。

冒頭に地形のことをお話ししましたがけれども、歌川廣重が描いた「名所江戸百景」なんですけれども、幕末の頃になりますけれども、ここに書いてありますように、119点のうちに、結構台地や低地といった起伏を描いたものが19点、それから、特に堀とか河川とか江戸湾とか橋を眺める名勝というんですかね、水辺を描いたものが82点ということで、かなり江戸の都市というのが、建造物があったり、大名屋敷があったり、町屋、密集した地域であるんですけれども、自然地形というんですかね、そういうものを描いて大事にしようとしたのではないかというような錦絵というものが数多く残っております。

各区では、坂の名前とか橋の名前であるとか、そういうので説明板を作ったりとかして、今もそういう道筋であるとか、あるいは地形というものが残っていて、江戸時代ながらの地形というものが今も大事にされているということになります。

次、どうぞ。

今、江戸の話をしたんですけれども、これ、展示で扱ったことがあるんですが、じゃ、東京になったら、要はあまり残っていないんじゃないかではないんですが、東京の様々な観光案内が明治時代以降作られていて、それを見ると、結構洋風建築、学校であるとか省庁であるとか、特にれんが造りの建物が名所になっていく、あるいは観光地化されていくということを1回展示をしたことがあります。

あと、それから、左側では、江戸時代では、「江戸買物独案内」であるとか、様々な錦絵に名店が描かれているんですけれども、やはり明治になって、明治の中頃にも「東京名物志」であるとか、そういう書物が出されていて、そういうところに名店が書かれて、現存しているものも少なくありません。そういうものも1つ江戸の観光としての、東京の観光の1つになるのかなということで、掲げさせていただきました。

はい。

都市の課題ということで掲げさせてもらったんですけれども、そういう建造物だけではなくて、例えば災害に関する文化財であるとか、あるいは刑罰に関係するもの、女性、子どもに関係するものというような、文化遺産というもの

が残っております。

特に、江戸時代の頃は100万都市になっておりますので、例えば1つ災害が起こると、非常にそれに対する対応というものが求められておりましたし、密集化した都市ですので、衛生面というものが非常に問題になっているというようなところで、それに対応する文化財、文化遺産というものがあるということを示させていただきました。

次、お願いします。

近代の文化財ということで、特に大正12年の関東大震災後に復興された橋梁というものが文化財指定されておりますし、あるいは、建造物というものが文化財指定されていることで掲げさせていただいております。

次。次。

すみません、最後になったんですけれども、それをどのような形で観光地化するかということで、1つの話題提供と考えていただければと思います。

1つ前に戻っていただければと思うんですが、退職した後に今まで残してきたりとか説明板を作ったものをGoogleマップに落としてマイマップしたんですけれども、左側の絵なんですけれども、そういうGoogleマップ等々を利用することによって、その場に行って文化財を見たり、あるいはその土地の情報を知ったりということが、今は簡単にそれこそ携帯で知ることができるということと、あと、それから、東京と江戸の重ね地図というものが作られていて、「ネットアドバンス」と書いてあります。江戸東京重ね地図というもののところに載せていくと、同じような形で、ここは江戸時代の頃にどういうところだったのだということが現地で知ることができて、そこにある文化財というものを情報としてタブレットであり、あるいは携帯で認識することができるということがもうすぐにできるというような形なのかなと思います。

次、お願いします。

最後になりますけれども、結構、近世の城跡に行くと、復元建物を造ったりということもかなりやられてきているんですけれども、それだけではなくて、ここは白河小峰城なんですけれども、ああいう説明板のところにQRコードをつけて、ダウンロードすると、それこそ目の前に建物が、その場で見るができるというようなことをしているのが、例えば白河小峰城であったり、津和野城であったり、そのほか、安土城、岡崎城、上田城、名古屋城などで最近行われてきているというように、現物をお金をたくさんかけて観光地化するというだけではなくて、こういうような技術を使って多くの人たちに知ってもらおうというものが有効なのかなということで、話題を提供させていただきました。

あと最後に、千代田区の在職中から、結構歩いたり、あるいは文化財ウィーク、10月、11月はほとんど土日は文化財の観光案内をやっていたんですけれども、最近では、船に乗ったりとか、それから皇居のほうに行くと結構自転車で

観光をしているヨーロッパ、アメリカから来られている方々というのが非常に多くて、特に東京は自転車道を整備しようという動きがありますので、船でそのものを、文化遺産、歴史遺産を見たり、あるいは自転車で巡ったりということも、1つハードの部分ということも含めて考える必要というものはあるのかなということで、話題提供、少し長くなってしまいましたが、私のプレゼンは終了させていただきたいというふうに思います。

【田川座長】

ありがとうございました。多分、相当時間が足りないんだろうというふうに思いますが。後藤さんのお話を聞くと、あと1時間ぐらいは多分聞いていないといけないのかなと思うんですけど、でも、江戸城であるとか、さっきの庭園文化だとか、最後の情報発信ところは非常に参考になる話が多かったと思います。ありがとうございました。

大石委員と堀口委員からは次回の会議でプレゼンテーションをお願いしたいというふうに思っておりますので。

意見交換の時間があまりないので、すみません。少しお話を聞いておきたいなと思っておりますが……。

それでは、最後に、大石委員のほうから、今お三方のお話を聞いて御感想なり。次回またプレゼンはしていただきますけども、今日の段階で何かお話をさせていただければと存じます。

【大石委員】

とても有益で、幅広くカバーされていたなというふうに思いました。

次回、私も少しお役に立てればと思いますが、ちょっと付け加えるとすると、大名たちの藩邸ですね、この機能というのが全国と東京・江戸を結ぶということでの首都と地域を結ぶという点では、やっぱり現在の地域と東京の関係のプロトタイプになっていて、それが東京事務所になっていますかね、今。いろんな意味で藩邸機能というのを見ていいかなというふうに思っています。

それから、お祭り、祭礼ですね、これも庶民文化として現在まで続いていて、これも見逃せないだろうというふうに思います。

それから、最後に、地名ですね。地名もやっぱり江戸の地名がそのまま随分残されていて、これはとても貴重な財産だなというふうに思います。

こんなところが、ちょっと私、もし付け加えさせていただければということでお話しさせていただきます。

【田川座長】

ありがとうございました。

今日、プレゼンテーションいただきましたので、これからあと予定としては2回ばかり部会を開きますので、いただいた意見をその場で少し皆さんと共に整理をしながらいきたいと思っています。

今日もキーワードを幾つかいただいています。

先に知事のほうから、やっぱり単なる観光じゃなくて、いかに江戸時代の生活文化をもう一回掘り起こして、それを伝えて、それが結果的に観光につながると、そういうプロセスで考えてほしいというお話がありました。

私も、実は単に観光の話じゃなくて、やっぱりもともとお客様がたくさん来るといえるのは、そこに楽しい生活文化があったから。これはヨーロッパへ行くときとかアメリカへ行くときも。そういうものなので、先ほど徳川家広さんがおっしゃった、最初にお話のあった安全・安心、それから清潔みたいなことについてはぜひやっぱり掘り下げ、それから、歩く文化みたいなことについてはもう少し掘り下げてみる必要があるし、それから、徳川眞木さんからお話しいただいた、特に子どもに対する教育とか伝承していくとか、そういうことについて、正直言って東京はあまりやっていないんですよ。地方のほうが多分そういう意味ではやっているケースが多いので、そういう意味では、東京都の中にもそういうものをしっかりと入れていく必要があると。

それからもう一つは、水のことがありましたよね、皆さんのほうから。やっぱり水の文化、八百何橋とか、八百八町とか、八百八寺とあるけど、東京は本当は水が一番、東京のほうがすごいんだと思うんですけども、そういう意味でも、都市設計という意味での文化をなぜつくったのかという、日本橋川をなぜつくって、筑波山と富士山と江戸城をどう見せたかという、あれが大好きなんですけども、そういう話もこれから少しやっていきたいなというふうに思います。

最後にお話しいただいた後藤さんからいただいた庭園文化については、これは東京はあまりやっていないんですよ。だから、こういうものも、大名屋敷そのものがよく見えていないので、やっぱりそういうものの設計図、私もアプリに古地図を入れて、いつもどこに何があるかとよく見るんですけども、やっぱりそういうものだと、外国人の方とか東京以外の日本人の方が東京に来たときに、なぜそこにあるのかみたいな、なぜなぜ質問が結構最近増えてまいりました。昔は建物を見て喜んでいたんですけどもね。そういう時代じゃなくなってきたので、そういう意味では、やっぱりQRコードで、アプリで説明するのも必要だし、生の言葉で、「ブラタモリ」じゃありませんけど、具体的に示すということも必要なのかなというふうに思いました。

その辺も、次回のプレゼンも含めて、皆さんからの意見を整理整頓していきたいというふうに思いますので、大変時間が短くて申し訳ありませんが、本日の議論はここまでとしたいと思います。

では、事務局から御連絡をよろしく申し上げます。

【江村観光部長】

本日は、貴重な御意見を賜りまして、誠にありがとうございました。

次回の開催は7月頃を予定しております。引き続き委員の皆様にはよろしく
お願いいたします。

【田川座長】

ありがとうございます。

それでは、次回またお話を委員の皆さんから、今日のプレゼン、それから大
石先生と堀口さんからもいただきますので、全体をまとめて最終的に整理をし
ていきます。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。

ありがとうございました。